

重点的に取り組む主な経営課題



経営課題3

【支援を要する人一人ひとりの命を守り抜く地域福祉】

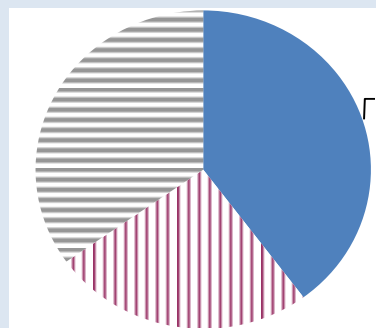
めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年間を念頭に設定＞

急病時・災害時に支援を要する人が孤立しないよう、見守り体制が構築され、見守りが必要な全ての人が見守られている状態
 全ての高齢者が交流できている状態
 全ての区民が健康に関心を持ちいきいきと生活できている状態

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

【天王寺区における65歳以上の人口の割合】

平成27年 14,529人/75,729人(19.2%)
 平成22年 12,680人/69,775人(18.2%)
 平成17年 11,387人/64,137人(17.8%)
 人口、65歳以上人口ともに増加している。
 高齢化率 19.2%(市24.8%、国26.7%)(平成27年国勢調査)



65歳以上で一人暮らしの割合 40.0%(市42.4%、国27.3%)
 (平成27年国勢調査)

不安や悩みを相談できる相手や、交流する機会を持たない75歳以上の高齢者 22.7% (令和2年度 区民モニター)

天王寺区要介護者認定者数

平成26年度 3,284人
 平成27年度 3,348人(対前年度 64人増)
 平成28年度 3,397人(対前年度 49人増)
 平成29年度 3,534人(対前年度 137人増)
 平成30年度 3,653人(対前年度 119人増)
 令和元年度 3,696人(対前年度 43人増)

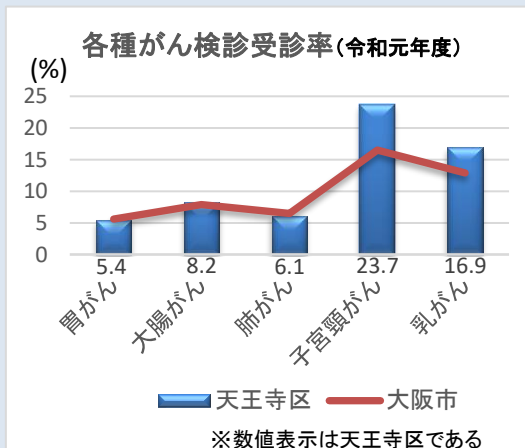
健康に関する取組を行っている区民の割合 (区民モニター)

平成29年度 58.5%
 平成30年度 56.1%
 令和元年度 75.2%
 令和2年度 72.0%

天王寺区のがん検診受診率

胃がん 令和元年度5.4% (大阪市5.6%) [24区中11位]
 大腸がん 令和元年度8.2% (大阪市7.9%) [24区中10位]
 肺がん 令和元年度6.1% (大阪市6.5%) [24区中12位]
 子宮頸がん 令和元年度23.7%(大阪市16.5%) [24区中1位]
 乳がん 令和元年度16.9%(大阪市12.9%) [24区中2位]

65歳以上の人がある世帯の状況 (天王寺区) (平成27年国勢調査による)



要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）

- ・65歳以上の高齢者世帯のうち4割が独居高齢者であり、国の平均を大きく上回っており、また普段から周りと交流機会を持たないなど、急病時・災害時において孤立化する高齢者が相当数いると考えられる。
- ・要介護者認定者数が年々増加しており、介護予防のための健康保持増進の取組が十分でないと考えられる。
- ・がん検診受診率が市平均を下回るものがあり、健康意識が低いことが考えられる。

課題（上記要因を解消するために必要なこと）

- ・「天王寺区地域福祉ビジョン」の推進。
- ・教育機関・企業・NPOなども巻き込んだ重層的な見守り体制の構築。
- ・高齢者の交流機会の充実。
- ・健康保持増進の取組のさらなる推進。
- ・がん検診受診の意識づけの周知の強化。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

令和3年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止措置の影響により、高齢者や要介護者の孤立化やフレイル、認知症の進行、虐待など様々な問題が複雑・深刻・多様化する中、区独自事業である「独居高齢者等見守りサポーター事業」や24区で実施している「要介護者見守りネットワーク強化事業」により地域による見守り活動は、様々な工夫により継続されており、地域における見守り体制は着実に構築されてきている。引き続き、当事業を推進させると共に、地域や関係機関・団体と連携を深め、高齢者、要介護者等の見守り支援体制の強化を目指す。

健康出前講座の実施について、健康保持増進に向けて日頃から健康への関心を持ち実践するための契機として継続した取組が重要である。令和4年度は、コロナ禍が続く状況であるが、感染症や食生活等身近なテーマを中心に実施する。また、健康予防の観点から、がん検診受診率向上に向けて、広報紙や周知ポスターの掲載を通じて、引き続き受診勧奨に取り組む。

めざす成果及び戦略 3-1 【支援を要する人への見守り体制の構築】

計画	めざす状態<概ね3～5年を念頭に設定>		戦略（中期的な取組の方向性）	
	・急病時・災害時に孤立する独居高齢者等がない見守り体制が構築されている状態 アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標） ・独居高齢者等への見守り体制が構築されていると感じる区民の割合 80% 令和3年度【重点目標】		・地域で実施されている活動と連携し、見守りが必要な独居高齢者等の生活や体調の異変を早急に察知して対応する見守り体制の構築 ・避難行動要支援者名簿に登録されている要援護者に対する、地域における平時の見守りと災害時の避難支援への備えの強化	
自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	アウトカム指標の達成状況		前年度	個別 全体
	独居高齢者等への見守り体制が構築されていると感じる区民の割合 59.7%		60.6%	B B
			A:順調 B:順調でない	
戦略の進捗状況	b	a:順調 b:順調でない	今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須	

具体的取組3-1-1 【独居高齢者等見守りサポーター事業】★

		元決算額	5,120千円	2予算額	5,262千円	3予算額	5,262千円
計画	当年度の取組内容		プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）				
	地域住民などを中心としたボランティアが、75歳以上で介護サービスを受けていない等の独居高齢者、高齢者のみ世帯の家庭訪問を行い、医療・介護等の課題への早期発見・早期対応を図る。 ・令和2年度の新規対象世帯から見守り訪問同意者を把握し、定期的に訪問 ・平成25～令和元年度に見守り訪問に同意され、引き続き見守りを希望される世帯については訪問を継続する。 ・当初、見守り訪問に同意されなかった80歳の方を対象に、再度、見守り訪問の意向確認を行う。 ・随時、見守りの受付をしていることを周知する。		独居高齢者等への見守り体制が構築されていると感じる区民の割合 80%以上 【撤退・再構築基準】 50%未満の場合には事業を再構築する。 前年度までの実績 ・令和2年度 ※達成状況 60.6% ・令和元年度 ※達成状況 60.9% ・平成30年度 ※達成状況 62.1% ・平成29年度 ※達成状況 61.6% ※本事業による見守り実施地域内の対象世帯については月1回程度定期的に訪問、実施地域以外の対象世帯については2～3ヶ月に1回程度定期的に訪問など				
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	戦略に対する取組の有効性	—	—				
自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	令和3年度の対象288世帯に対して見守り希望を調査し、希望された29世帯を新規対象者とした。また令和3年度に80歳に到達した291世帯に対して、再度見守り希望を調査し、希望された30世帯を新規対象者とした。見守りにより介護認定へつなぐなど必要な措置を取った方以外で平成25年度～令和2年度に見守りを希望された世帯のうち継続での見守りを希望された253世帯と令和2年度新規48世帯の合計301世帯について、地域の実情に応じ月に1回程度や、数カ月に1回程度等の見守り訪問を実施。		区民に対して、様々な機会を利用し本事業の内容・趣旨について周知の推進及び見守り対象者の増加を図る取組が必要。				
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
独居高齢者等への見守り体制が構築されていると感じる区民の割合 59.7%		② (i)	・区民に本事業の認知度の増加を図り、合わせて本事業の趣旨を理解して頂けるように、委託事業者（区社協）に設置している見守り相談室と連携し、積極的かつ効果的に周知・広報活動を行っていく。 ・令和2年度から、80歳になった方に再度登録の勧奨を行ったところ、令和3年度は30世帯の方から同意を得たことから、今年度についても前回不同意であった対象者を含め、令和4年度に80歳になる方に再度登録の勧奨を行う。				
戦略に対する取組の有効性		ア	—				

具体的取組3-1-2

【地域における要援護者の見守りネットワーク強化事業】★

		元決算額	12,410千円	2予算額	12,634千円	3予算額	12,634千円
計画	当年度の取組内容	プロセス(過程) 指標(取組によりめざす指標)					
	避難行動要支援者名簿に登録されている要援護者に対して、地域における平時の見守りと災害時の避難支援への備えを強化する。 ・要支援者名簿にかかる同意確認・名簿整備 対象者 新たに要支援者名簿に登録される方(約500人) ・「見守り支援ネットワーク」による孤立世帯等への専門的対応 随時 ・「認知症高齢者見守りネットワーク」による徘徊者保護 随時	「要援護者名簿」の提供にかかる同意が得られた対象者数 200人以上 【撤退・再構築基準】 120人未満の場合には事業を再構築する。					
		前年度までの実績					
		令和2年度					
		同意が得られた対象者数 294人(新たに対象となった高齢者・障がい者・難病患者等)					
		令和元年度					
		同意が得られた対象者数 280人(新たに対象となった高齢者・障がい者・難病患者等)					
		平成30年度					
		同意が得られた対象者数 259人(新たに対象となった高齢者・障がい者・難病患者等)					
		※令和元年度末現在の同意が得られた要援護者数 1,436人					

中間振り返り	プロセス指標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成		—
	戦略に対する取組の有効性	—	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す —: プロセス指標未設定(未測定)

自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	・要支援者名簿にかかる同意確認・名簿整備を対象者約500人に実施 ・「見守り支援ネットワーク」による孤立世帯等への専門的対応 ・「認知症高齢者見守りネットワーク」による徘徊者保護	—	
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	「要援護者名簿」の提供にかかる同意が得られた対象者数 255人 ① (i)	—	
①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成			
戦略に対する取組の有効性	ア	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す —: プロセス指標未設定(未測定)	

めざす成果及び戦略 3-2 【健康のための取組の強化】

計画	めざす状態＜概ね3～5年間で念頭に設定＞ ・健康保持増進に取り組む区民の増		戦略（中期的な取組の方向性） ・健康保持増進の取組を行う機会を充実する。	
	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標） 健康に関する取組を行っている区民の割合 80% 令和3年度			
自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す	
	アウトカム指標の達成状況	前年度	個別	全体
	健康に関する取組を行っている区民の割合 74.3%	72.0%	B	B
戦略の進捗状況		a	a:順調 b:順調でない	
		課題 ※有効性が「イ」の場合は必須		
		今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須		

具体的取組3-2-1 【健康推進に関する事業】

		元決算額	161千円	2予算額	89千円	3予算額	89千円
計画	当年度の取組内容		プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）				
	<ul style="list-style-type: none"> 区職員が地域に出向き、健康に関する出前講座を実施する。 出前講座では、介護予防の効果が実証されている「いきいき百歳体操」や筋力アップの「ももてん体操」の紹介や実技指導、その他「感染症予防」をテーマとした講座や「栄養講座」など幅広く行い、健康づくりに関する関心を高める。 出前講座の実施 18回以上 本市において最も死亡率の高いがんについて、がん検診の周知や受診勧奨を行い、がんの予防啓発を行う。 		出前講座を受講して健康に関する関心が高まった受講者の割合 60% 【撤退・再構築基準】 30%未満の場合には事業を再構築する 前年度までの実績 令和2年度 10回実施 ※達成状況 100% 令和元年度 25回実施 ※達成状況 89.9% 平成30年度 24回実施 ※達成状況 91.4%				
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	① (ii)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、出前講座は4回に留まるが、健康意識向上への役割を一定果たしていると考えている。今後は、感染の収束を前提として、「感染症」「栄養」を中心に講座の要望(現時点6件)もあるため、積極的にアプローチを行い講座実施を通じた意識啓発に取り組み、目標達成に繋げる。				
	戦略に対する取組の有効性	—	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)				
自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	出前講座の実施 11回 令和3年度は、長期間に渡りコロナ禍(第5波、第6波など)の影響を受け、開催には厳しい環境ではあったが、令和2年度実績(10回)程度の回数を実施した点は、十分に評価できるものと考えている。 がん検診の受診勧奨 がん検診周知用ポスターの作成 1回 区広報紙特集号(令和4年4月)で受診に関する情報等を掲載		—				
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
出前講座を受講して健康に関する関心が高まった受講者の割合 100%		① (ii)	—				
戦略に対する取組の有効性		ア	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)				